

(4) テーマ3 「キャリア・パスポート」の有用性

○「キャリア・パスポート」の作成は、キャリア教育に期待される児童の学習意欲を高めることに影響していると考えられる。

- ・「キャリア・パスポート」の作成は、各学校のキャリア教育の取組を評価し、改善へ結びつける「検証・改善サイクル」の手がかりとなる。
- ・「キャリア・パスポート」の作成はキャリア教育に対する認識の共有や協力体制の構築など、職員間の連携を促進する。
- ・「キャリア・パスポート」の作成は、自己の生き方に関して気づきを促すなど担任によるキャリア・カウンセリングの一層の充実につながる。
- ・「キャリア・パスポート」の作成は、キャリア教育において期待される、児童の学習意欲を高めることに結び付く。
- ・「キャリア・パスポート」に対するフィードバックや振り返りの時間を設けることは、児童に対しては社会的・職業的自立に必要な力に結び付き、保護者に対しては一層の理解や協力へとつながる。
- ・「キャリア・パスポート」に「自己の成長」などの記録内容を含めることで、その教育的効果は一層高まる。
- ・キャリア教育の一層の充実に寄与する「キャリア・パスポート」の教育的効果を共有し、作成する学校・担任の割合を高めていくことが必要である。

①「キャリア・パスポート」の作成が管理職の意識に与える影響

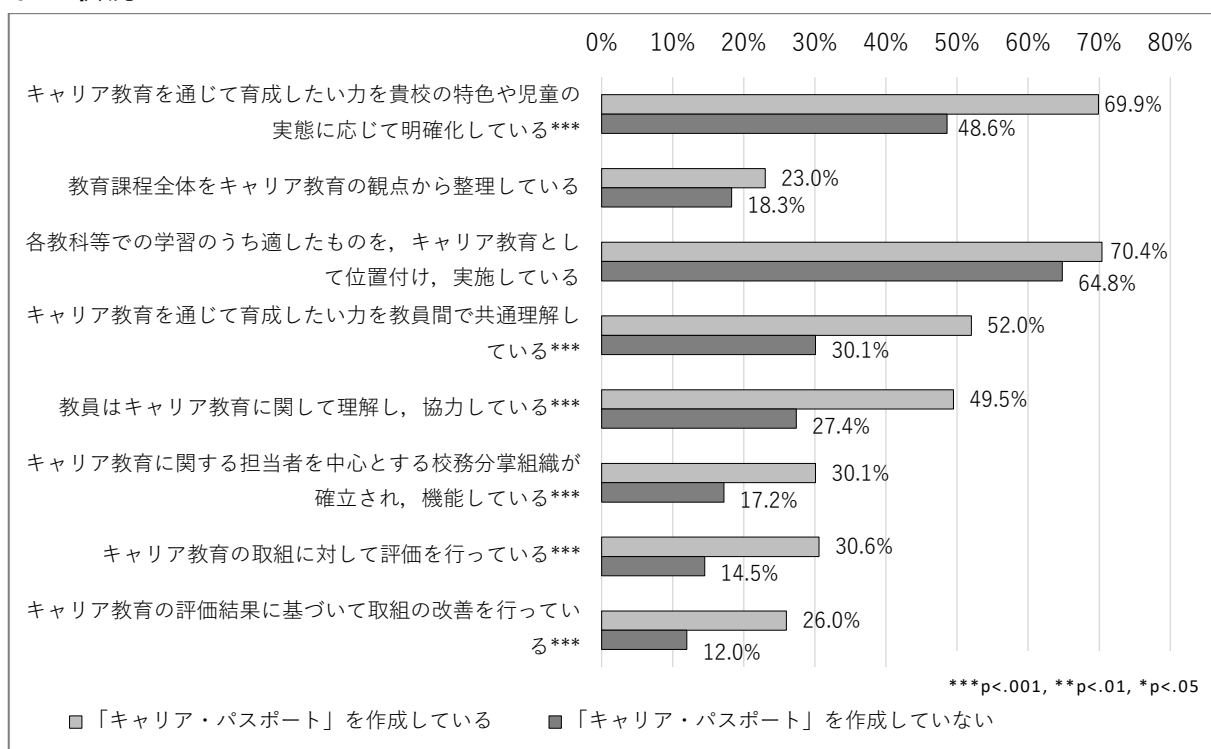
「キャリア・パスポート」を作成している学校は25.2%、作成していない学校は74.8%であり*1、作成率の向上がまず課題として挙げられるところではあるが、各自治体の主導などもあり、本調査以降、作成する学校は増えてくると予想される。

「キャリア・パスポート」を作成している学校と作成していない学校で、管理職から見たキャリア教育の現状に関する設問のうち、カリキュラム・マネジメントに関わる8項目の割合を比較したところ*2、6項目で「キャリア・パスポート」を作成している学校の方が高い割合であった(図1)。「教員はキャリア教育に関して理解し、協力している」は22.1ポイント、「キャリア教育を通じて育成したい力を教員間で共通理解している」は21.9ポイント、「キャリア教育を通じて育成したい力を貴校の特色や児童の実態に応じて明確化している」は21.3ポイント、「キャリア教育の取組に対して評価を行っている」は16.1ポイント、「キャリア教育の評価結果に基づいて取組の改善を行っている」は14.0ポイントの差が見られた。

また、同じ設問のキャリア教育の成果に関わる4項目では3項目で差が見られ、「キャリア教育の実践によって、児童が将来や自らの生き方を考えるきっかけになり得ている」は23.0ポイント、「キャリア教育の実践によって、児童が社会的・職業的自立に向けて本校で育成したい力を身に付けてきている」は8.5ポイント、「キャリア教育の実践によって、学習全般に対する児童の意欲が向上してきている」は8.1ポイント高い(図2)。

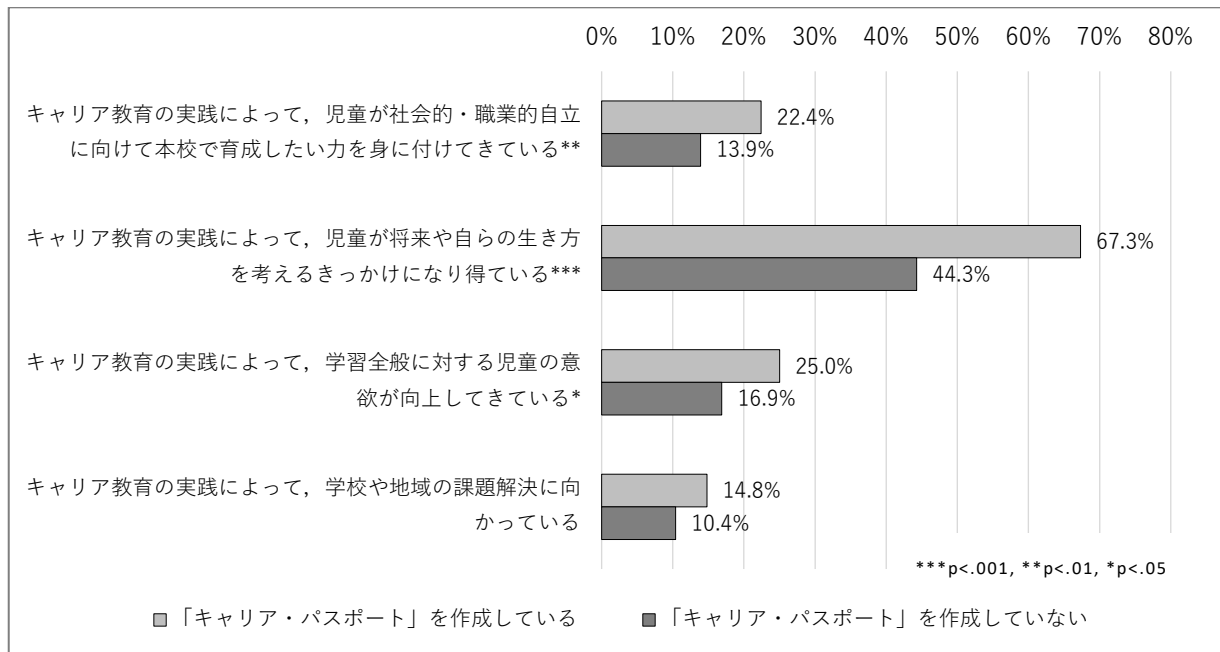
「キャリア・パスポート」の作成は、第一義的な目的である「児童の取組に関する記録の蓄積と評価」のみならず、各学校のキャリア教育が適切に実施されているか、改善点はどこにあるのかなど、「検証・改善サイクル」の手がかりとしても有効に機能していると思われる。さらに、基礎的・汎用的能力の育成をはじめとするキャリア教育の目標の確認や、職員間のキャリア教育に対する認識の共有、実施の際の協力体制の構築にもつながるなど、キャリア教育の推進に好ましい影響を与えていると推察される。また「キャリア・パスポート」を作成している学校では、「キャリア・パスポート」が将来や自らの生き方を考えるきっかけとなっており、キャリア教育に対する学習意欲の向上や学習の動機づけに結び付いていることが推測される。

【図1】「キャリア・パスポート」作成の有無別の、学校のカリキュラム・マネジメントの状況



※ χ^2 検定の結果、6項目で有意差が見られた。「キャリア教育を通じて育成したい力を貴校の特色や児童の実態に応じて明確化している」 ($\chi^2(1) = 26.667, p < .001$)、「キャリア教育を通じて育成したい力を教員間で共通理解している」 ($\chi^2(1) = 30.526, p < .001$)、「教員はキャリア教育に関して理解し、協力している」 ($\chi^2(1) = 32.393, p < .001$)、「キャリア教育に関する担当者を中心とする校務分掌組織が確立され、機能している」 ($\chi^2(1) = 14.804, p < .001$)、「キャリア教育の取組に対して評価を行っている」 ($\chi^2(1) = 25.207, p < .001$)、「キャリア教育の評価結果に基づいて取組の改善を行っている」 ($\chi^2(1) = 21.767, p < .001$)

【図2】「キャリア・パスポート」作成の有無別の、管理職からみたキャリア教育の成果



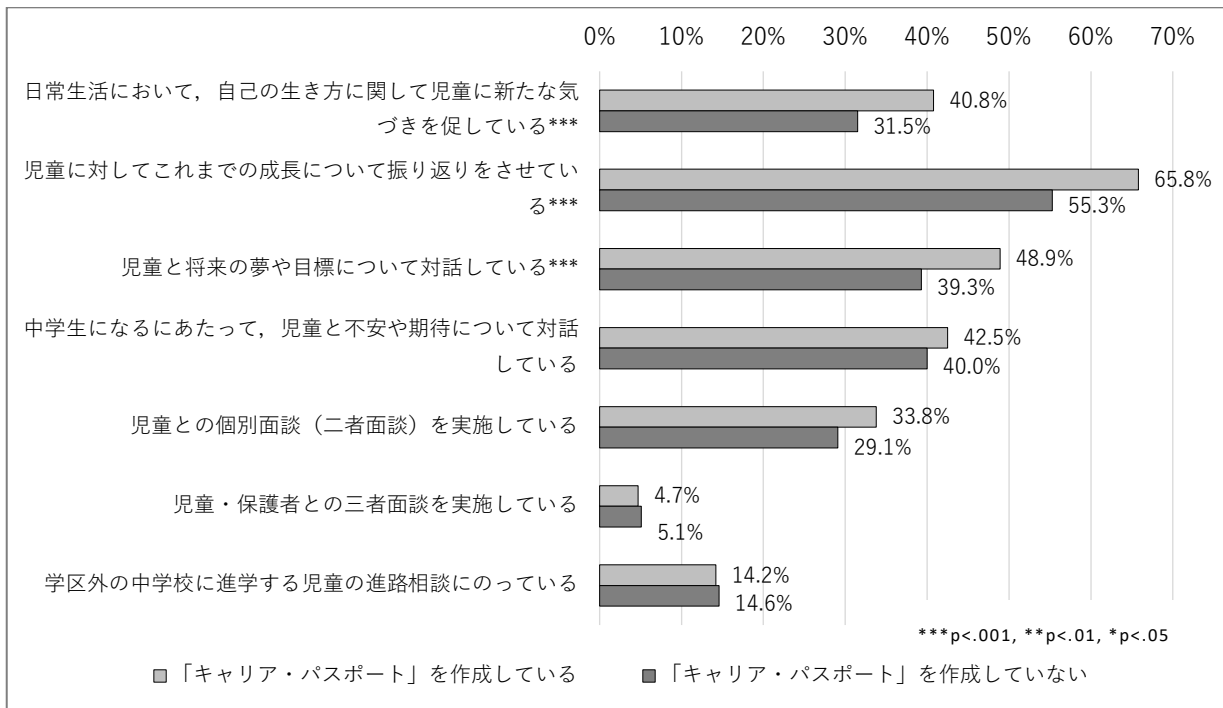
※ χ^2 検定の結果、3項目で有意差が見られた。「キャリア教育の実践によって、児童が社会的・職業的自立に向けて本校で育成したい力を身に付けてきている」($\chi^2(1) = 7.835, p < .01$), 「キャリア教育の実践によって、児童が将来や自らの生き方を考えるきっかけになり得ている」($\chi^2(1) = 31.176, p < .001$), 「キャリア教育の実践によって、学習全般に対する児童の意欲が向上してきている」($\chi^2(1) = 6.240 < .05$)

② 「キャリア・パスポート」の作成が担任の意識に与える影響

「キャリア・パスポート」を作成している担任と作成していない担任における*³, 担任がキャリア・カウンセリングとしてどのような実践を行っているか尋ねた設問*⁴の回答を比較したところ、3項目について「キャリア・パスポート」を作成している担任の方が、高い割合であった(図3)。「児童に対してこれまでの成長について振り返りをさせている」は10.5ポイント、「児童と将来の夢や目標について対話している」は9.6ポイント、「日常生活において、自己の生き方に関して児童に新たな気づきを促している」は9.3ポイントの差が見られた。

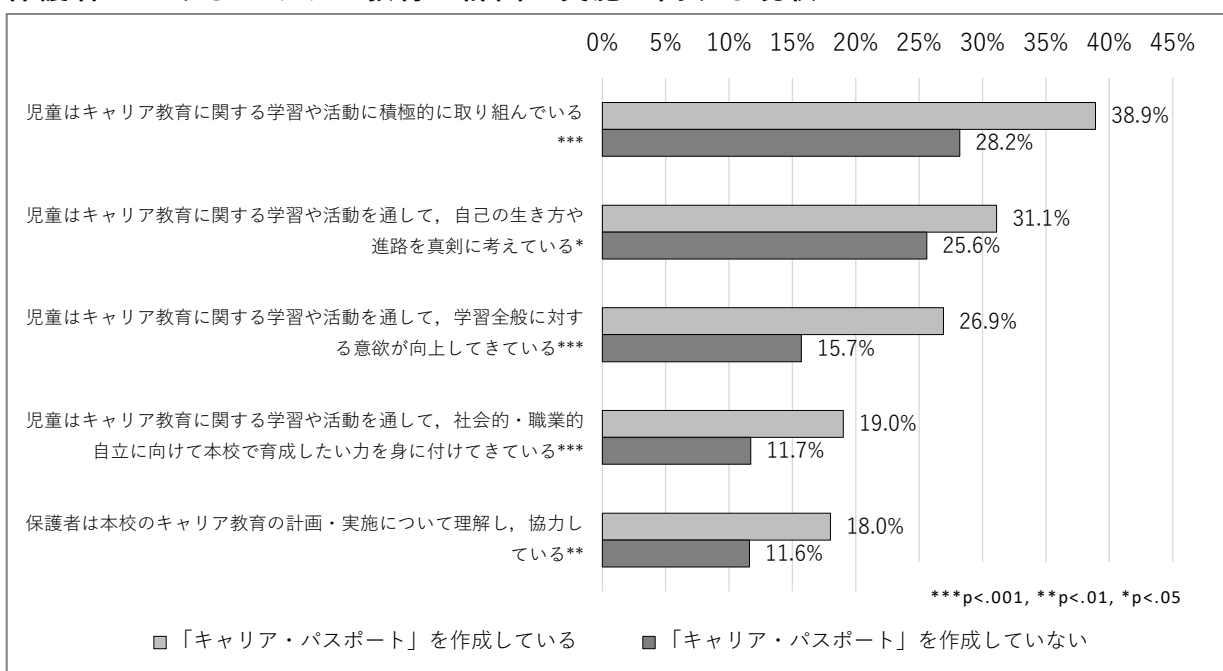
また「キャリア・パスポート」を作成している担任と作成していない担任における、担任から見た学級や学年の児童や保護者におけるキャリア教育の計画・実施の現状について比較したところ*⁵, こちらも「キャリア・パスポート」を作成している担任の方が、高い割合であった(図4)。「児童はキャリア教育に関する学習や活動を通して、学習全般に対する意欲が向上してきている」は11.2ポイント、「児童はキャリア教育に関する学習や活動に積極的に取り組んでいる」は10.7ポイント、「児童はキャリア教育に関する学習や活動を通して、社会的・職業的自立に向けて本校で育成したい力を身に付けてきている」は7.3ポイントの差が見られた。

【図3】「キャリア・パスポート」作成の有無別の、担任がキャリア・カウンセリングとして行っている実践



※ χ^2 検定の結果、3項目で有意差が見られた。「日常生活において、自己の生き方に関して児童に新たな気づきを促している」($\chi^2(1) = 12.705, p < .001$), 「児童に対してこれまでの成長について振り返りをさせている」($\chi^2(1) = 15.096, p < .001$), 「児童と将来の夢や目標について対話している」($\chi^2(1) = 12.405, p < .001$)

【図4】「キャリア・パスポート」作成の有無別の、担任からみた学級や学年の児童や保護者におけるキャリア教育の計画・実施に関する現状



※ χ^2 検定の結果、5項目全てで有意差が見られた。「児童はキャリア教育に関する学習や活動に積極的に取り組んでいる」($\chi^2(1) = 17.740, p < .001$), 「児童はキャリア教育に関する学習や活動を通して、

自己の生き方や進路を真剣に考えている」($\chi^2(1) = 4.971, p < .05$), 「児童はキャリア教育に関する学習や活動を通して, 学習全般に対する意欲が向上してきている」($\chi^2(1) = 26.800, p < .001$), 「児童はキャリア教育に関する学習や活動を通して, 社会的・職業的自立に向けて本校で育成したい力を身に付けてきている」($\chi^2(1) = 14.812, p < .001$), 「保護者は本校のキャリア教育の計画・実施について理解し, 協力している」($\chi^2(1) = 11.543, p < .01$)

すべての児童を対象とした相談活動であるキャリア・カウンセリングについて, 特に小学校においては実施率を高めるとともに, 自立的に生きていけるよう支援していくことが課題として挙げられている。そのような中において, 「キャリア・パスポート」を作成している担任の方が, これまでの成長を振り返らせたり, 将来の夢や目標について取り上げたり, 自己の生き方に関して気づきを促したりするなど, キャリア・カウンセリングの内容が, より充実していることが明らかになった。

さらに, キャリア教育の計画や実施に関わる項目では, 「キャリア・パスポート」を作成している学校の方が, キャリア教育に関する学習や活動に積極的であったり, その活動を通して, 基礎的・汎用的能力などの学校が育成したい力を身に付けたりしているなど, 望ましい姿が見られている。特筆すべきこととして, 学習に対する意欲が高まっていることがあげられる。キャリア教育においては, 学校での学習の意義を自分の将来との関係において見だし, 学習に対する意欲を高めていくことが期待されており, 今回の結果はその成果の一端を示したものと言えるであろう。

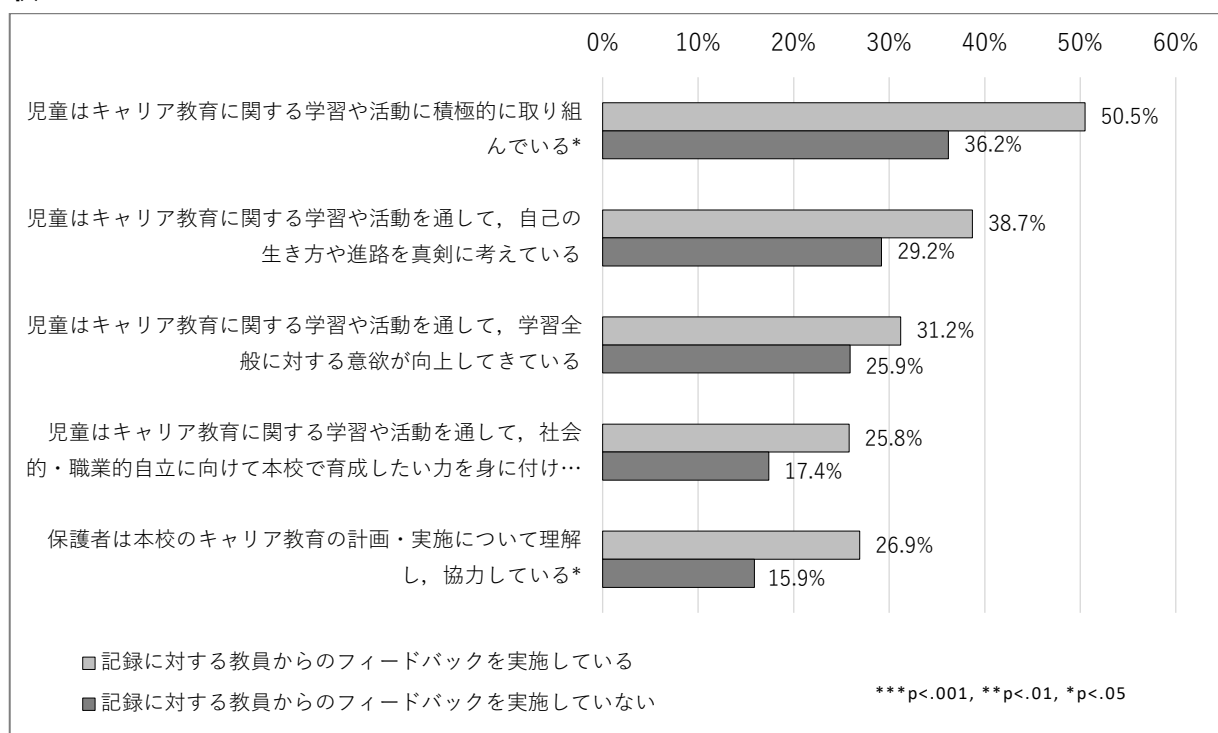
③ 「キャリア・パスポート」のフィードバックが担任の意識に与える影響

「キャリア・パスポート」の活用方法を尋ねた設問に着目し^{*3}, 「キャリア・パスポート」を作成している担任のうち, 記録に対する教員からのフィードバックを実施している場合と, そうでない場合における, 担任から見た学級や学年の児童や保護者におけるキャリア教育の計画・実施に関する現状を比較した^{*5}。その結果, 2項目について教員からのフィードバックを実施している場合の方が, 高い割合であった(図5)。「児童はキャリア教育に関する学習や活動に積極的に取り組んでいる」では14.3ポイント, 「保護者は本校のキャリア教育の計画・実施について理解し, 協力している」では11.0ポイントの差が見られた。

また, 「キャリア・パスポート」を作成している担任のうち, キャリア・パスポートへの記載内容に関して児童同士による共有・フィードバックを実施している場合と, そうでない場合における, 担任から見た学級や学年の児童や保護者におけるキャリア教育の計画・実施の現状を比較したところ, 児童同士によるフィードバックを実施している場合の方が, 高い割合であった(図6)。「児童はキャリア教育に関する学習や活動を通して, 自己の生き方や進路を真剣に考えている」は21.2ポイント, 「児童はキャリア教育に関する学習や活動を通して, 学習全般に対する意欲が向上してきている」は15.5ポイント, 「保護者は本校のキャリア教育の計画・実施について理解し, 協力している」は12.1ポイント, 「児童はキャリア教育に関する学習や活動を通して,

社会的・職業的自立に向けて本校で育成したい力を身に付けてきている」は 10.9 ポイントの差が見られた。さらに、「キャリア・パスポート」を作成している担任のうち、学期末・年度末などに記録を振り返らせる時間を設けている場合と、そうでない場合における、学級や学年の児童や保護者におけるキャリア教育の計画・実施の現状を比較したところ、記録を振り返らせる時間を設けている場合の方が、高い割合であった（図 7）。「児童はキャリア教育に関する学習や活動に積極的に取り組んでいる」は 11.3 ポイント、「児童はキャリア教育に関する学習や活動を通して、自己の生き方や進路を真剣に考えている」は 10.8 ポイントの差が見られた。

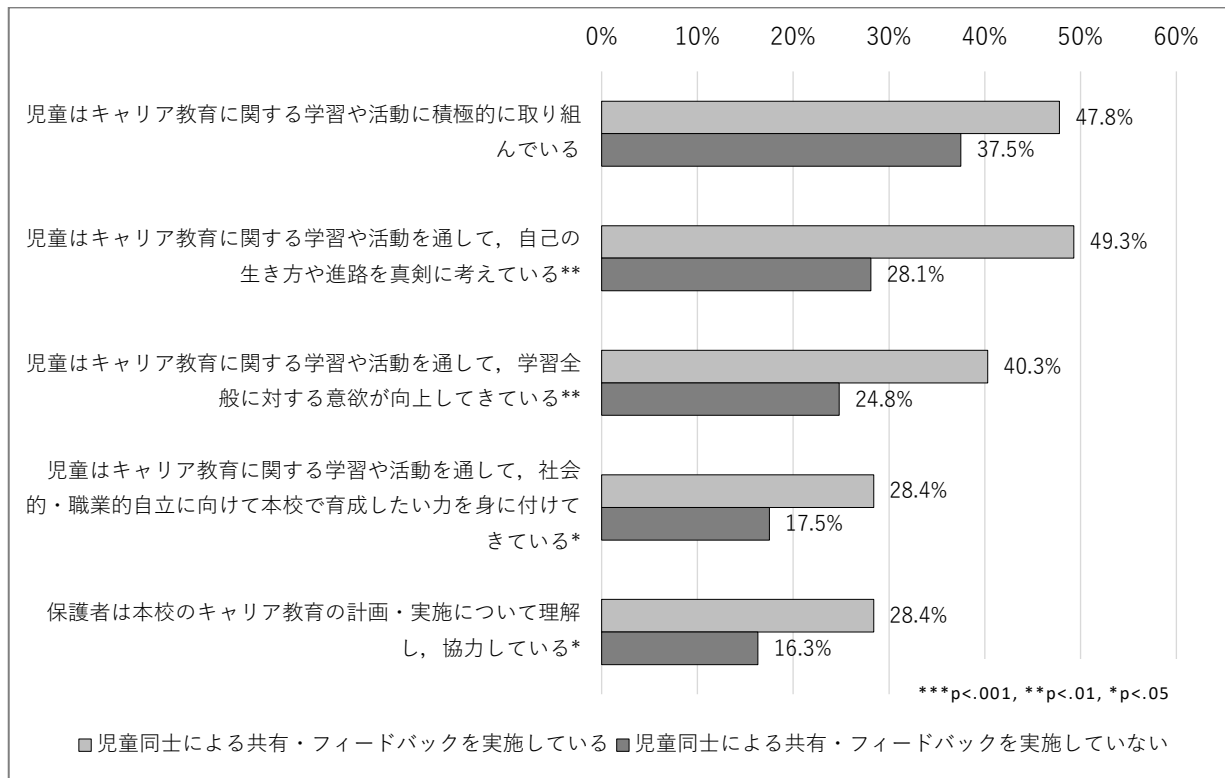
【図 5】「キャリア・パスポート」記録に対する教員のフィードバックの有無別の、担任からみた学級や学年の児童や保護者におけるキャリア教育の計画・実施に関する現状



※ 「キャリア・パスポート」を作成している担任に限定した比較

※ χ^2 検定の結果、2項目で有意差が見られた。「児童はキャリア教育に関する学習や活動に積極的に取り組んでいる」($\chi^2(1) = 6.535, p < .05$)、「保護者は本校のキャリア教育の計画・実施について理解し、協力している」($\chi^2(1) = 6.135, p < .05$)

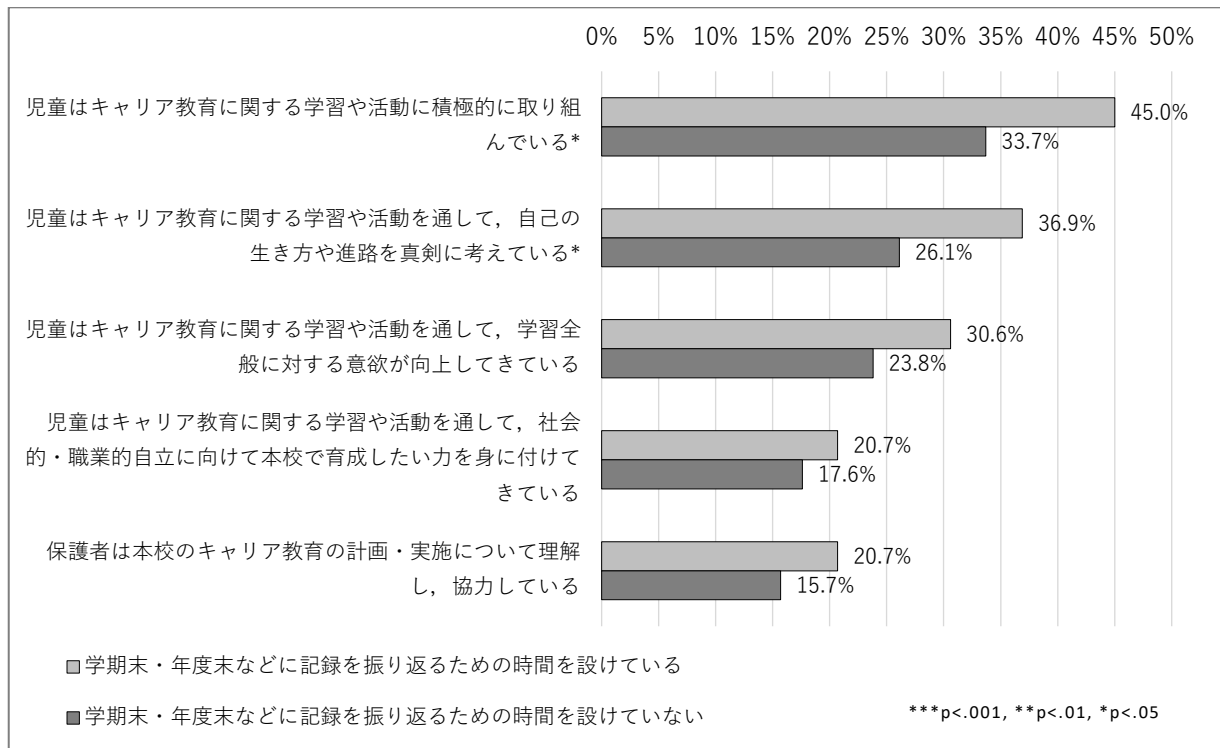
【図6】「キャリア・パスポート」記録に対する児童同士による共有・フィードバックの有無別の、担任からみた学級や学年の児童や保護者におけるキャリア教育の計画・実施に関する現状



※「キャリア・パスポート」を作成している担任に限定した比較

※ χ^2 検定の結果、4項目で有意差が見られた。「児童はキャリア教育に関する学習や活動を通して、自己の生き方や進路を真剣に考えている」($\chi^2(1) = 12.032, p < .01$)、「児童はキャリア教育に関する学習や活動を通して、学習全般に対する意欲が向上してきている」($\chi^2(1) = 7.083, p < .01$)、「児童はキャリア教育に関する学習や活動を通して、社会的・職業的自立に向けて本校で育成したい力を身に付けてきている」($\chi^2(1) = 4.373, p < .05$)、「保護者は本校のキャリア教育の計画・実施について理解し、協力している」($\chi^2(1) = 5.638, p < .05$)

【図7】学期末・年度末などに記録を振り返る時間の有無別の、担任からみた学級や学年の児童や保護者におけるキャリア教育の計画・実施に関する現状



※「キャリア・パスポート」を作成している担任に限定した比較

※ χ^2 検定の結果、2項目で有意差が見られた。「児童はキャリア教育に関する学習や活動に積極的に取り組んでいる」($\chi^2(1) = 6.476, p < .05$)、「児童はキャリア教育に関する学習や活動を通して、自己の生き方や進路を真剣に考えている」($\chi^2(1) = 6.636, p < .05$)

「キャリア・パスポート」の記録への教員のフィードバックは、児童のキャリア教育に対する取組の姿勢に良い影響を与え、それを見た、又は知った保護者に対しては一層の理解や協力を結び付けることが明らかになった。また、「キャリア・パスポート」の記録への児童同士の共有やフィードバックは、自己の生き方や今後の進路について真剣に考えることや、社会的・職業的自立に必要な力を身に付けることに結び付けることも明らかになった。さらに、学習意欲の向上に関しては、「キャリア・パスポート」を作成している担任の方が強く認識していることを前述したが、その「キャリア・パスポート」の記載内容に関して児童間で共有させたり、フィードバックをさせたりすることが、更なる学習意欲の向上に結び付いている。

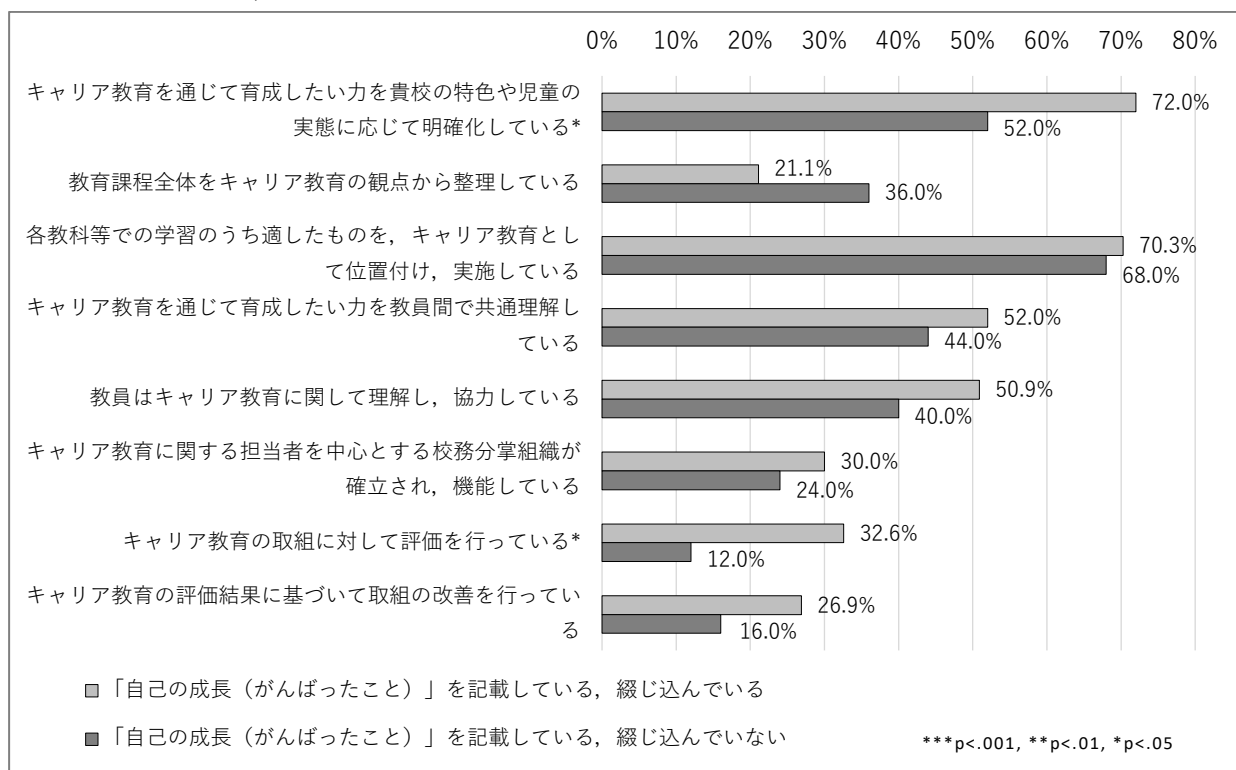
記録の振り返りの時間を設けることにより、児童のキャリア教育の取組に対する姿勢が積極的になることや、自己の生き方や進路を真剣に考えるようになる、との結果からも、「キャリア・パスポート」の作成だけでなく、その活用方法によって、教育的効果は一層高まると言える。

④管理職の意識と「キャリア・パスポート」の記載内容の関係

「キャリア・パスポート」の内容を尋ねた設問*6に注目して、管理職から見たキャリア教育の現状に関する設問のうち、カリキュラム・マネジメントに関わる8項目の割合*2がどのように異なるか分析した。「キャリア・パスポート」を作成している学校のうち、「キャリア・パスポート」に「自己の成長（がんばったこと）」を記載している、又は綴（と）じこんでいる場合と、そうでない場合を比較したところ、記載している、又は綴じこんでいる場合の方が、2項目について高い割合になった（図8）。「キャリア教育の取組に対して評価を行っている」は20.6ポイント、「キャリア教育を通じて育成したい力を貴校の特色や児童の実態に応じて明確化している」は20.0ポイントの差が見られた。

「キャリア・パスポート」の作成により、検証・改善サイクルの手がかりとなることや、キャリア教育の推進に好ましい影響を与えること、児童の学習意欲を高めたり、学校が育成したい力を身に付けさせたりすることにつながるなど、望ましい姿が見られることは前述したが、「自己の成長（がんばったこと）」を記載している、又は綴じこんでいる場合については、キャリア教育の評価が充実すること、更にキャリア教育の目標の明確化にもつながる傾向が見られた。「キャリア・パスポート」に記載させる内容を工夫することで、「キャリア・パスポート」を用いることによる教育的効果は一層高まると言える。

【図8】「キャリア・パスポート」に「自己の成長（がんばったこと）」の記載や綴じこみの有無別の、学校のカリキュラム・マネジメントの状況



※「キャリア・パスポート」を作成している学校に限定した比較

※ χ^2 検定の結果、2項目で有意差が見られた。「キャリア教育を通じて育成したい力を貴校の特色や児

童の実態に応じて明確化している」($\chi^2(1) = 4.128, p < .05$), 「キャリア教育の取組に対して評価を行っている」($\chi^2(1) = 4.408, p < .05$)

⑤今後の方向性

「キャリア・パスポート」の作成により、各学校のキャリア教育の取組や、児童に与える良い影響が確認された。具体的には、各学校においてはキャリア教育の取組に対し「検証・改善サイクル」の手がかりとなることやキャリア教育の実施における職員間の連携の推進につながることで、担任個人においてはキャリア・カウンセリングの一層の充実につながることで、児童においてはキャリア教育において期待される基礎的・汎用的能力の育成とともに、学習意欲が高まることに結び付くことなどである。

さらに、「キャリア・パスポート」の活用方法について、フィードバックや振り返りの時間を設けることは、児童に対しては社会的・職業的自立に必要な力に結び付き、保護者に対しては一層の理解や協力へとつながること、「キャリア・パスポート」に「自己の成長」などの記録内容を含めることで、その教育的効果を更に高めることも期待できる。

「キャリア・パスポート」は単なる形式ではなく、既に実質的な機能を果たしている。冒頭にも記載したが、現状「キャリア・パスポート」の抱える一番の課題は、作成していない学校が7割を超えるところにある。分析結果から明らかになった効果について特に作成していない学校に対して情報提供や情報の共有を図り、各自治体や学校において「キャリア・パスポート」の作成を働きかけていくことが重要であろう。

参考：第一次報告書における参照データ

* 1	P78	小学校・学校調査	問 15
* 2	P76	小学校・学校調査	問 13
* 3	P90	小学校・学級担任調査	問 10
* 4	P91	小学校・学級担任調査	問 11
* 5	P87	小学校・学級担任調査	問 7
* 6	P79	小学校・学校調査	問 15(2)